

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|-------------|
| 施設番号 | 66-0393 |
| 施設名 | 五日市保育園 |
| 施設所在地 | あきる野市五日市345 |
| 法人名 | 社会福祉法人 雲柱社 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界を知り それぞれの違いを認め かけがえのない自分を感じる

<テーマの設定理由>

自園では、「私たちの願い」として「さまざまな人との関わりを大切に、思いやりを持って共に生きる子ども」を掲げています。その思いから異年齢たてわり保育を行い、障害のあるお子さんや医療的ケアの必要なお子さんも積極的に受け入れをし、子どもたちは日常で様々な人との関わりを経験しています。世界とは何か、世界にはどのような人が住んでいるのか、どんな食べ物があるのか、どんな服を着ているのかなど、世界の異文化の学習を通じ、自分たちの生活とは異なる文化に興味を持ち、豊かな世界観を持つきっかけとしたいと考えました。今も自園の子どもたちは「自分とは違う」人がいることが当たり前で生活をし、考え方や価値観の違いがあることも学んでいます。そんな子どもたちの視野をもっと広げるきっかけとなり、人との違いを認め合い、共に生きる喜びを感じ、平和を作り出す心の土台作りをしたいと思います。

2. 活動スケジュール

9月 世界とは？
10月 ケニアを知ろう
11月 シンガポールを知ろう
12月 世界わくわくクイズ（楽器や衣装）
1月 世界わくわくクイズ（簡単な英会話）
2月 インドを知ろう
3月 かけがえのない自分の顔を版画で表現
毎月1回 「英語で遊ぼう」の時間を設ける

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
せかいタッチ（教材プログラム） モニター テレビ台 ケーブル
版画用画用紙 絵具 画版 ばれん 折り紙 インク
英語講師 造形講師

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・世界についての質問を投げかけ、子どもの興味関心を高めるためのちスタートする。
- ・国旗のぬり絵を楽しむ。
- ・オンラインでケニア、シンガポール、インドの子どもたちと関わる。
- ・異国の楽器を手に取り、実際に音を鳴らしてみる。
- ・異国の衣装を手に取り、実際に着てみる。
- ・異国の挨拶を知る。
- ・版画で自分を表現する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・初めに「世界ってなんだか知ってる？」との問いに「他の国」「アメリカ」「スリランカ」など知っている他国の名前が挙がる。「いろんな国の名前を知っているね」「これはなんだか知っている？」と数種類の国旗を見せ子どもたちに考えさせる。保育室内に国旗のぬり絵と絵本や国旗が描かれた積木を用意しておく、自分たちで配色を見ながら塗り始める。
- ・ケニアのおやつを「マンダジ風揚げパン」として、提供すると「おいしい」という声とともに「ケニアから飛行機で持ってきたのかと思ったよ」という声もある。「ケニアから飛行機で運んだらどのくらい時間がかかるんだろうね」と問いかける。
- ・オンラインでオーストラリアや香港の子どもが描いた絵を見て、「うまい!」と感心したり、「ピカチュウだ!」と自分たちが知っているキャラクターを外国の子どもたちも知っていることに驚く。「ポケモンは日本だけじゃなく、他の国でも見ているんだね」驚きを言葉にして伝える。
- ・誕生日の祝い方も国によって違うことを知る。タイではランタンを挙げて祝うこともあり「きれい」「いいな」と異国の風習に関心を持つ。
- ・欧州の玩具「カップ&ボール」に実物を手に取る。「何かに似てない？」との問いかけに「けん玉に似てる!」と異国の玩具が日本の伝統玩具と似ていることに気づく。
- ・インドの衣装「サリー」が日本の着物に似ている部分と似ていない部分があると気づく。
- ・クイズで楽しみながら、タンザニアの写真を見て多くの子どもたちが「ケニアだ!」という。子どもたちのそれぞれの知識の中で、タンザニアとケニアの共通点を見出した。異国の中にも似ている国があることを知る。
- ・アフリカの楽器「アラサト」を手に取り、カスターネットと一緒に音を鳴らしてみる。アラサトが木の実からできていることを知り、身の回りの物を打ち合わせて音を出してみる。
「カシシ」を玄関に置いておくと、保護者から「カシシを作っています」という方が声をかけてくれた。
- ・オーストラリアの楽器「レインスティック」の音に耳を傾け、「雨の音だ」と気付く。雨乞いに使ったものであることを伝え、そこから雨が私たちが生きる上で大切であるという話に発展させた。
- ・諸外国の楽器や玩具の中には、日本にも似たのもあれば、見たことがないようなものまであることに気づくよう、見たことがある? 何かに似てる? などの声掛けをしていった。
- ・日常保育の時間に「英語で遊ぼう」の時間を設け、英語でのあいさつや、手遊び、ゲームをして楽しみながら、異文化に触れていった。道ですれ違った外国の方に、躊躇なく自らあいさつをする姿に驚いた。
- ・自分を観察し、画用紙描いた自画像を部位別に切り抜き、別紙に貼り付けて版画にした。周囲に自分の好きな色紙をちぎって貼り付け、自己を表現する。友だちと作品の出来上がりを見せ合い、互いの違いに気が付く。
- ・年度末の「英語で遊ぼう」では「愛されるための生まれてきた」という歌をみんなで歌い、みんな愛されていることを再確認し、それぞれ違って当たり前の人たちを思いやる心の土台作りとなった。



海外の園とオンラインで交流

自画 版画制作

ケニアのおやつ
マンダジ風揚げパン

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・私たち大人が当たり前になっている日々の事柄は、子どもたちにとっては初めての出会いであったり、ワクワクドキドキのきっかけになるものです。大人がいかに興味を持ち、面白がれるかによって、子どもたちの関心の度合いは変わってきます。世界ってなんだろうの問いかけに子どもたちは持ち合わせた知識の中から自分なりの答えを出していました。すくわくを通して、子どもたちに問いを投げかけることが、保育を広げ、子どもたちの探求心を深めるきっかけになることを改めて感じる事ができました。子どもたちは、世界に自分とは異なる外見、食べ物、風習等の人々が生活していることを知り、さらには大切な自分に気づけたと、それぞれ画用紙いっぱい生き生きとした自画の版画製作から感じられました。